

(様式)

# 令和4年度 学校評価 学校関係者評価書

園名	三木市立緑が丘東幼稚園
----	-------------

## 1 幼稚園教育目標

『思い合いのある 心豊かな子どもたちの育成』 ・健康で明るく最後までがんばる元気な子 ・自分の思いが素直に表現でき、友だちの思いを受けとめられる子 ・誰とでも仲良く遊べる子
---

## 2 本年度の重点目標

○友だちとの関わりの中で、自己発揮しながら、心を動かして主体的に遊べるような環境づくりに努め、魅力ある幼稚園をめざす。 ○『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を意識しながら、支援の方向性と学びを明確にし、保育実践をする。 ○保護者や地域との連絡や情報発信等により、地域に開かれた幼稚園をめざす。
--

## 3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程・指導	①一人一人の内面を読み取り、発達に即した指導を行う。(写真によるドキュメンテーションの実践、個人支援案の作成と共通理解) ②友だちや異年齢児との遊びを通して生き抜く力の基礎を育成する。(4・5歳児合同保育の計画・実施) ③基本的生活習慣を身につける。 ④学校給食や栽培活動等を通じた食に関する指導及び食育の推進を行う。	①職員会議を毎日行い、写真を見ながら、園児一人一人の頑張った点、気になった点等を全職員で共有することで、正確な幼児理解に基づいた評価を行っている。(写真は、ドキュメンテーションやクラスだより、ホームページ、連絡帳にも活用し、園生活の様子や成長が保護者に伝わるよう配慮している。) ②子どもたちの「やりたい」と思う遊びの内容が、子どもたちの力で発展していくための“いろいろな種”となる環境構成(人的・物的・空間)を適時性を見計らいながら、整えていくことに尽力している。そのためには、全職員での共通理解と検討・実施・見直し・改善等が必要である。 ③園児一人一人の発達段階を把握し、肯定的な言葉をかけながら、排泄・衣服の着脱・食事・身辺整理など、基本的生活習慣の確立をめざしている。 ④栄養教諭(給食博士)からのメッセージを園児にわかりやすく伝え、保護者にも給食の写真と共に、毎日掲示し、「親子の共有情報」と「食への関心」が高まるようにしている。自園栽培として、今年度は、イチゴ、夏野菜(なす、トマト、トウモロコシ、キュウリ、オクラ、パプリカ、ピーマン)、タマネギ、ジャガイモ、サツマイモ、レタス、ダイコンの種まきや苗植え、水やり、草引き、収穫等の活動を友だちと一緒に体験することができた。	B	①少人数だからこそ、毎日の職員会議で、全園児の育ちを共通理解できる。時間の確保と継続に努める。 ②本当に子どもたちがやりたいと思っているのか、喜びはどこにあるのか、個々の目標は達成できているのかを、しっかり分析・評価して明日の指導につなげる。 ③基本的生活習慣の確立には、個人差や家庭環境が大きく左右すると同時に教師の声掛けや表情も影響する。<できた喜び><成長への意欲>が感じられるよう、丁寧に接していく。 ④今後も、自園栽培や学校給食(豊富な食材、栄養満点)を通じ、「食べることは生きるために大切なこと」として伝え、少しでも偏食を失くせるように働きかける。
道徳・人権教育	①様々な体験活動を通し、相手を思い合う心や規範意識の芽生えを育てる。 ②身近な自然や動植物にふれ、命を大切にすることを育てる。 ③友だちとの関わりの中で、葛藤する経験をした、折り合いをつけたりしながら、自分の気持ちを調整できる力を育てる。 ④子どもたちが、教師に求めたり、心が動いたりしたその時機を逃さず保育にいかす。	①日常生活の中で、年長児と年少児の自然な関わりや刺激し合える環境を構成し、子ども同士のそれぞれの成長につなげている。(例えば、給食活動を合同で行うことで、年長児が年少児の世話をしたり、手本を見せたりすることで自信や使命感をもつことができ、年少児のマナーも身につくとともに、食欲アップにつながっている。) ②自然豊かな園庭での直接経験を重要視している。身近な動植物の生命に触れ、子どもたちが、驚きや発見したことに興味や関心をもち、自主的な活動につながるように支えながら、<共感する><夢中になれる>時間を大切にしている。 ③「葛藤や挫折」「我慢や譲渡」等の経験は、「子どもが育つチャンス」「非認知能力の育ち」であることを保護者と共通理解しながら、乗り越えようと頑張る様子を園と家庭とで支えている。 ④『時機を逃さない』(園児の心が動いた瞬間をキャッチし、保育に活かす)をモットーに、わくわくするような環境構成を工夫している。(夏まつりごっこ・わくわくオリンピック・わくわくカーニバル等)	B	①年長児と年少児の関わりの中で、何を伝えたいのか、一緒にして嬉しいこと等が伝わるように支え、お互いの存在が喜びや刺激になるように配慮する。 ②子どもの心をキャッチするために、絶えず、教師自身の感性を磨くことに尽力し、『感動する心』を忘れない。 ③④子どもたち一人一人の目には見えない心の動きや育ちを、表情・言葉・態度から感じ取るとともに、時機を逃さずに受容と応答ができるように努める。また、保護者と教師との連携を大切に、共感と協同することを心がけ、楽しみながら子育てができるようにする。
特別支援教育	①一人一人の独自性や違いを受けとめながら、「心もち」への共感を大切にするとともに、共に学び、育ち合える仲間関係づくりをする。 ②関係諸機関と適切な連携を行い、専門性を学び、実践する。	①個々の「心もち」に対する受容に努め、安心して自己表現できるクラスづくり・園づくりをめざしている。一人一人が<自分の気持ちを言葉で伝えること><態度で表現すること><友だちの思いを意識して聞くこと>が、安心してできるような雰囲気づくりに努め、自己表現できる機会を設定している。 ②市の巡回相談、園内研修会による講師の招聘等により、実際の子ども集団生活の様子から、適切な支援の方向性や必要な配慮について研修を深めた。	B	①個人支援案に基づいた指導について反省と評価を行い、全職員で支援の方向性や具体策を検討する。 ②専門機関との連携は、幼児の発達段階に即した適切な支援を行うために重要である。今後も、個に応じた丁寧な指導を心がけ、計画・実施する。
家庭・地域との連携	①園と家庭との情報交換を密にしながら幼児理解を深め、基本的生活習慣を確立する。 ②老人会、地域との交流等、様々な人々とかかわる機会を設定する。 ③他校種との連携をする。(少人数の強みをいかした交流の工夫)	①保護者へは、降園時のスピーチや連絡帳への写真添付、クラスだよりの発行等により、教育活動や園児の様子を具体的に伝えるよう努力し、信頼関係の構築を図っている。 ②毎日の園庭開放や園児と遊ぶ会「たんぼぼ広場」の実施、老人会との「花いっぱい運動」(夏・秋)、青山・緑が丘町各公民館の作品展や家庭教育学級実施(ターザンロープ遊び、親子ピクス)、乳幼児学級来園等に協力することができた。また、地域の方には、ウサギの餌や大輪菊、大松ぼっくりの提供や新春お茶会の招待、イベント紹介(お手玉ヨーヨー)等にも大変お世話になり、貴重な経験することができた。 ③隣接する緑が丘東小学校との交流は、小学生への憧れや成長への見通し、意欲や期待感につながっている。特に、1年生に招待を受けた「秋フェスタ」やボランティア委員会の5・6年生との交流は、親近感を持ちながらの楽しい活動となった。他園(三樹幼・広野幼)やこども園との交流、三木北高校の環境教育活動(キャップ集め、古着回収)への協力、トライやるウィークの中学生との心の交流等も大変貴重な経験となっている。	A	①②子どもたちは、保護者や地域の方々にかくさん支えられながら、心も身体も豊かに成長している。日常の当たり前前にできていること(元気に登園すること・友だちと遊ぶこと・食べること等)に感謝し、集団生活の楽しさ・生きる喜びを共感していきたい。 ③今後も、少人数だからこそできる交流を検討し、一つ一つの機会が、単なるイベントではなく、互いのメリットとなるように、事前事後の打ち合わせや研修を実施する。
安全教育 防災教育	①新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して行う。(気温や湿度の状況により、熱中症対策を優先する。) ②園舎、遊具等の安全点検を徹底して行う。 ③危機管理マニュアルの活用と実践的な訓練(火災・地震・不審者等)を実施する。 ④家庭や小学校と連携し、危機管理体制を推進する。 ⑤市教委と連携し、危険箇所等の整備と施設管理体制の充実を行う。	①「けんこうかんさつカード」による毎朝の検温、体調観察の実施、マスクの着用、手洗いの徹底等、家庭と園で習慣化することができている。 ②点検日を決め、複数の目で安全確認と記録をしている。園児の遊びを見守っている途中でも、気になる箇所は、点検をし、職員会議で報告し合っている。 ③④危機管理マニュアルに基づき、火災・地震・不審者侵入等、様々な場面を想定し訓練を実施したり、教職員の救急法講習会に参加したりしている。特に今年度は、『毎日が避難訓練』という意識をもち、日ごろから、子ども同士や園児と教師の信頼関係の構築を大切に、どんな状況でも、全員で生き延びるために、しっかり話を聞くことを重要視している。 ⑤小さな事でも、『ヒヤリハット幼稚園マップ』『ヒヤリハット・けが等発生報告書』を活用し、場所や状況等を全職員で共通理解し、事故等の防止に努めている。	B	①感染症予防の習慣化できていることを継続しつつ、活動や身の回りの状況に対応できるように言葉をかけていく。 ②安全点検を継続し、目視・触診・聴診を行う。遊具だけでなく、樹木や用具の隙間等にも注意し、セアカゴケグモ等の害虫駆除を行う。 ③④日ごろから、子ども同士や園児と教師の信頼関係を構築し、「集中して話をきく」ことを大切に保育を進めてきたことは成果があった。今後もチームワーク力を高める。 ⑤ヒヤリハットを見逃さないようにすることで、危険防止に役立っている。今後も継続していく。

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

評価方法は、概ね妥当である。  保護者・教職員アンケートの実施に加え、ようちえんだよりや園生活の写真等、評価するための資料がとても充実しており、教職員の教育に対する情熱や優しさが感じられる。
---

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価  【教育課程・指導】…評価は概ね妥当である。  子どもたちの日々の様子を全職員で共有・把握していることは、保護者の安心や信頼につながっている。また、子どもたちの「やりたい」を全力で応援し、支えようとする姿勢は、保育の原点である。今後も続けていただきたい。
【道徳・人権教育】…評価は概ね妥当である。  少人数をいかし、年長児と年少児が関わりの中で、お互いのことを理解し、また、存在を喜び合い、刺激しながら高まり合うことができている。さらに、「葛藤や挫折」「我慢や譲渡」等の経験を“子どもが育つチャンス”と捉え、折り合いをつけながら乗り越えようとする姿を支えている教育は大変すばらしい。
【特別支援教育】…評価は概ね妥当である。  個々の「心もち」に対する受容、すなわち、園児一人一人に寄り添う保育を今後も大切にしていきたい。
【家庭・地域との連携】…評価は概ね妥当である。  子どもたちだけでなく、保護者同士や地域との交流・連携が積極的に行われており、貴重な経験となっている。保護者のアンケートに「緑が丘東幼稚園は、AIにはできない人間力を育ててくれている」と表記してあったが、家庭や地域の力を借りて、その人間力を伸ばしていただきたい。
【安全教育・防災教育】…評価は概ね妥当である。  感染症対策は、習慣化できしており、園児の少しの体調の変化にも対応できるよう努めている。また、いろいろな場面を想定した避難訓練ができている。安全・防災教育にも、日頃の家庭や地域とのつながりをいかしていたきたい。





